総説

アスベストと悪性胸膜中皮腫の外科

岡部和倫

IRYO Vol. 63 No. 7 (415－420) 2009

要旨 アスベスト問題が大きく再燃した．アスベスト被害は，職業曝露(ばくろ)のみならず，アスベストを使用していた工場の周辺住民にも発生し，社会問題化している．アスベストは天然の繊維性ケイ酸塩鉱物で，安価な上に断熱性や耐火性などの優れた特性を有しているので幅広く使用されてきた．最近のアスベスト使用量は激減しているが，潜伏期間が長いので，アスベストが原因の患者数は，今後さらに増加すると報告されている．アスベストが惹起(じゃっき)する代表的な疾患は，悪性中皮腫，肺癌，アスベスト肺などである．肺に含まれるアスベスト小体は，アスベスト曝露の重要な指標とされている．当院の検査では，アスベストを扱う職業の悪性胸膜中皮腫や肺癌患者の切除肺に，多数のアスベスト小体が存在する症例を認めた．発病の原因を推定できるとともに，肺癌患者の労災補償や石綿新法による救済に役立っている．悪性胸膜中皮腫は予後がきわめて不良で，生存期間中央値が5カ月から18カ月の報告が多い．治療は外科療法，化学療法，放射線療法が中心だが，確立された治療方法はない．Sugarbaker らは，胸膜外肺全摘術の術後に化学放射線療法を加え，上皮型，切除断端陰性，胸膜外リンパ節転移陰性の患者群において，生存期間中央値51カ月，5年生存率46%というきわめて良好な成績を報告した．早期の症例は集学的治療によるよい予後が期待できるので，適切な胸腔鏡下胸膜生検による早期診断が強く望まれる．手術適応のある症例に対しては，数々の工夫を駆使して高いレベルの胸膜外肺全摘術を行い，集学的治療を円滑に実施しなければならない．著しい治療効果が期待できる優れた治療法の開発が待たれる．

キーワード　石綿（アスベスト），石綿小体（アスベスト小体），悪性胸膜中皮腫，胸膜生検，胸膜外肺全摘術

はじめに

2005年6月に兵庫県尼崎市でのアスベスト被害が報道されて以来，アスベスト問題が大きく再燃した．職業曝露のみならず，アスベストを使用していた工場の周辺住民にも患者が発生し，公害としても社会問題化している．2008年12月の新聞紙上では，アスベストの労災認定を受けた事業所が全国で2500カ所以上にも及ぶと報じられた．今後もアスベストに起因する患者数の増加が予想され，大いに注目されて

国立病院機構山口宇部医療センター　呼吸器外科　外科
別刷請求先：岡部和倫　国立病院機構山口宇部医療センター　外科系診療部長　〒755-0241　山口県宇部市東岐波685
（平成20年12月26日受付，平成21年4月10日受理）
Asbestos and Surgery for Malignant Pleural Mesothelioma
Kazunori Okabe, NHO Yamaguchi Ube Medical Center
Key Words: asbestos, asbestos body, malignant pleural mesothelioma, pleural biopsy, extrapleural pneumonectomy